

親鸞聖人御誕生八百五十年
立教開宗八百五十年
慶讃法要

ご縁を喜び、お念仏とともに

浄土真宗本願寺派
龍谷山本願寺（西本願寺）



本願寺 全体図



■諸注意

- 気分が悪くなったり、けがをされたときは、最寄りの係員、または防災センターまでご連絡ください。
- 落し物を拾われた場合、または落し物をされた際は、防災センターにお問い合わせください。
- 不審者・不審物を発見した際は、速やかに最寄りの係員、または防災センターまでご連絡ください。
- 喫煙所は、北境内地駐車場内に設置いたします。
- 防災センター【直通：075-371-5191】

- = 貸出用車椅子設置場所
- = 車椅子対応施設
- = 車椅子対応エレベータ
- = オストメイト対応トイレ(多目的トイレ)
- = AED(自動体外式除細動器)設置場所
- = 食事処
- = 喫煙所
- = 授乳室
- = Wi-Fi 電波受信建物

0 25 50m

法要期間日程中
開門 5:30
閉門 17:00

基本日程

親鸞聖人御誕生850年 慶讃法要
立教開宗800年

時 間	内 容	場 所
5:30	開 門	
6:00	晨 朝	両 堂
9:35	日程説明 挨拶 記念布教	御 影 堂
10:00	慶讃法要〈午前の座〉	御 影 堂
引続き (11:45頃)	帰 敬 式	阿 弥 陀 堂
12:30		
13:35	日程説明 挨拶 記念布教	御 影 堂
14:00	慶讃法要〈午後の座〉	御 影 堂
引続き (15:45頃)	帰 敬 式	阿 弥 陀 堂
引続き (16:30頃)	日 没 勤 行	両 堂
(17:00頃)	閉 門	

親鸞聖人御誕生850年 慶讃法要
立教開宗800年

記念五条袈裟・輪袈裟・式章



紋：下り藤紋白浮織、上下対い鶴紋燃金
地模様：小豆色繫ぎ銀杏立涌地紋に松文様

紋は、さが ふじもんしらうきおり じょうげ むか つるもんよりきん
を用いた上下対い鶴紋燃金。

地模様は、親鸞聖人の御幼名から若松地紋様、立教開宗の地とされる稲田御坊境内にあるお葉付銀杏にちなみ、銀杏の葉を繫ぎ合わせた、たてわく じもんよう 立涌地紋様。この模様は、人と人を線で結び、無限に広がってゆくご縁とつながりを表現しています。

親鸞聖人御誕生八百五十年 立教開宗八百年 慶讃法要をお迎えして

浄土真宗本願寺派総長
本願寺執行長
安石 永雄 玄
い かわ なが けい けん

いよいよ「親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」をお迎えさせていただくこととなり、これまで国内外の僧侶、門信徒の皆様をはじめ、有縁の方々からお寄せいただきましたご協賛に、あらためて衷心より御礼感謝申し上げます。

ご門主様は、本年の御正忌報恩講法要ご満座に続いて、新しい「領解文」（浄土真宗のみ教え）についての消息を發布され、その冒頭で、「このたびの慶讃法要は、親鸞聖人の立教開宗のご恩に深く感謝し、同じお念仏の道を歩む者同士が、あらためて同信の喜びを分かち合うためのご法要です」とお示しになりました。

今から八百年前、宗祖親鸞聖人は、本願念仏の教義を『顕浄土真実教行証文類』（教行信証）にまとめられ、他力のお念仏こそ在家出家を問わず凡愚のものが、ひとしく救われる道であることを明らかにされました。これが浄土真宗にとって親鸞聖人による立教開宗であり、以来、浄土真宗のみ教えは、ご歴代宗主のもと脈々と受け継がれ

てきました。また、お念仏申して生き抜かれた多くのひとによつて支えられ、現代に生きる私たちにも確かな依りどころとして国の内外に広がっています。

今こそ私たちは、阿弥陀如来による「そのままの救い」の有難さに、あらためて思いをいたさねばなりません。自分だけを大事にすることなく、人と喜びや悲しみを分かち合うなど、少しでも仏法にかなう生き方をめざし、精いっぱい努めさせていただく人間になるのです。

聖人の説き示してくださった浄土真宗のみ教えに出遇うことがなければ、今の私はあり得なかったという感謝と、立教開宗への喜びを込めて、このたびのご法要をお迎えることは誠に尊いことであります。

ご法要を機縁に、み教えに生かされ、いよいよお念仏を喜び、すべてのいのちあるものが、お互いに心を通い合わせて生きていけるような社会の実現に向け、心を一つに精進してまいりましょう。

もくじ

2	基本日程
3	ご挨拶 浄土真宗本願寺派総長 石上智康 本願寺執行長 安永雄玄
6	浄土真宗の教章（私の歩む道）
8	親鸞聖人御誕生八百五十年 についての消息 立教開宗 八百年
10	新しい「領解文」（浄土真宗のみ教え） についての消息
14	念仏者の生き方（親教）
18	「私たちのちかい」についての親教
20	親鸞聖人御誕生八百五十年 慶讃法要 趣意書 立教開宗 八百年
22	新制御本典作法
33	新しい「領解文」（浄土真宗のみ教え）
34	恩徳讃
35	雅楽
36	親鸞聖人のご生涯

38	協賛行事（4月29日、5月6日・7日）
42	愛唱歌「みんな花になれ」
44	布教
45	帰敬式
46	免物
47	書院・飛雲閣 特別公開
48	子どもたちの笑顔のために募金
49	「〈貧困の克服に向けて～Dana for World Peace～〉 ―子どもたちを育むために―」展示ブース 「テンプル食堂きょうと・西本願寺みんなの笑顔食堂」の開催
50	第66回 全国児童生徒作品展
51	真宗と聖徳太子（龍谷ミュージアム）
52	親鸞聖人誕生八百五十年特別展（京都国立博物館）
53	舞台公演『若き日の親鸞』（京都四條 南座）
54	大谷本廟
55	日野誕生院・角坊
56	新型コロナウイルス感染症対策のお願い

スローガン

ご縁を慶び、
お念仏とともに

ロゴマーク



今の私たちが、このお念仏の
教えに出遇うことができたのは、
八百五十年前の親鸞聖人ご誕生
あつてのことであり、そして八百年
前に、その教えを明らかにしてく
ださったからに他なりません。私
たちは、その八百年にわたる長い
伝統と歴史の一員に名を列ねてい
ることに慶びを噛みしめるととも
に、阿弥陀如来に願われ、阿弥陀
如来のお慈悲に包みこまれ、お念
仏としてはたき続けてくださって
いることへの感謝と慶びの輪を、さ
らに広めていきたいものです。

親鸞聖人の命の灯が、人々を救
い、教えを広める様子をイメージ
してロゴマークを制作しました。親
鸞聖人を中心に、手を合わせる人々
が一つに集い、共に生きていく姿を、
蓮の形で表現しています。

浄土真宗の教章（私の歩む道）

宗名	浄土真宗
宗祖 (ご開山)	親鸞聖人 ご誕生 一一七三年五月二十一日（承安三年四月一日） ご往生 一二六三年一月十六日（弘長二年十一月二十八日）
宗派	浄土真宗本願寺派
本山	龍谷山 本願寺（西本願寺）
本尊	阿弥陀如来（南無阿弥陀仏）
聖典	・釈迦如来が説かれた「浄土三部経」 『仏説無量寿経』『仏説観無量寿経』『仏説阿弥陀経』 ・宗祖 親鸞聖人が著述された主な聖教 『正信念仏偈』（教行信証）行巻末の偈文 『浄土和讃』『高僧和讃』『正像末和讃』 ・中興の祖 蓮如上人のお手紙 『御文章』
教義	阿弥陀如来の本願力によって信心をめぐまれ、念仏を申す人生を歩み、この世の縁が尽きるとき浄土に生まれて仏となり、迷いの世に還って人々を教化する。
生活	親鸞聖人の教えにみちびかれて、阿弥陀如来の信心を聞き、念仏を称えつつ、つねにわが身をふりかえり、慚愧と歓喜のうちに、現世祈禱などにたよることなく、御恩報謝の生活を送る。
宗門	この宗門は、親鸞聖人の教えを仰ぎ、念仏を申す人々の集う同朋教団であり、人々に阿弥陀如来の智慧と慈悲を伝える教団である。それによって、自他ともに心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献する。

親鸞聖人御誕生八百五十年 立教開宗八百年 についての消息

来る二〇二三年には、宗祖親鸞聖人のご誕生八百五十年、また、その翌年には立教開宗八百年にあたる記念すべき年をお迎えするにあたり、二〇二三年に慶讃法要をお勤めいたします。

親鸞聖人は承安三年・一一七三年にご誕生となり、御年九歳で出家得度され、比叡山で修行を重ねられました。二十九歳の折、山を下りて法然聖人の御弟子となられ、阿弥陀如来の本願念仏の世界に入られました。その後、専修念仏停止によって越後にご流罪になられ、赦免の後は関東に赴かれて他力念仏のみ教えを人々に伝えられるとともに、『教行信証』の執筆にとりかかられました。他力念仏のみ教えがまとめられた本書は、浄土真宗の根本聖典という意味でご本典と呼ばれています。そして、そのご本典の記述によって、その成立を親鸞聖人五十二歳の時、すなわち元仁元年・一二二四年とみて、この年を立教開宗の年と定めています。

仏教は今から約二千五百年前、釈尊が縁起や諸行無常・諸法無我というこの世界のありのままの真実をさとられたことに始まります。翻って私たちは、この執われのないおさとの真実に気づくことができず、常に自分中心の心で物事を見て、悩み、悲しみ、あるいは他人と争ったりしています。

釈尊は、このような私たちをそのままに救い、おさとの真実へ導こうと願われたのが阿弥陀如来であることを教えてくださいました。そして、親鸞聖人は、この阿弥陀如来の願いが、南無阿弥陀仏のお念仏となってはたき続けてくださっていることを明らかにされたのです。

ありのままの真実に基づく阿弥陀如来のお慈悲でありますから、いのちあるものすべてに平等にそがれ、自己中心的な考え方ができない煩惱具足の私たちも決して見捨てられることはありません。その広大なお慈悲を思うとき、親鸞聖人が「恥づべし傷むべし」とおっしゃったように、阿弥陀如来のお心とあまりにもかけ離れた私たちの生活を深く慚愧せざるをえません。しかし、この慚愧の思いは、阿弥陀如来の悲しみを少しでも軽くすることができればという方向に私たちを動かすでしょう。

それは、阿弥陀如来の願いを一人でも多くの人に伝え、他人の喜び悲しみを自らの喜び悲しみとするような如来のお心にかなう生き方であり、また、世の安穩、仏法弘通を願われた親鸞聖人のお心に沿う生活です。み教えに生かされ、いよいよお念仏を喜び、すべてのいのちあるものが、お互いに心を通い合わせて生きていけるような社会の実現に向け、宗門総合振興計画の取り組みを進めながら、来るべき親鸞聖人ご誕生八百五十年ならびに立教開宗八百年の慶讃法要とともにお迎えいたしましょう。

平成三十一年 一月九日
二〇一九年

龍谷門主 釋 專 如

新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)についての消息

本年三月には、「親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」という記念すべきご勝縁をお迎えいたします。このたびの慶讃法要は、親鸞聖人の立教開宗のご恩に深く感謝し、同じお念仏の道を歩む者同士が、あらためて同信の喜びを分かち合うためのご法要です。また、これを機縁として、特に若い人やこれまで仏教や浄土真宗に親しみのなかった人など、一人でも多くの方々に浄土真宗とのご縁を結んでいただきたいと思います。

伝道教団を標榜する私たちにとって、真実信心を正しく、わかりやすく伝えることが大切であることは申すまでもありませんが、そのためには時代状況や人々の意識に応じた伝道方法を工夫し、伝わるものにしていかなければなりません。このような願いをこめ、令和三年・二〇二一年の立教開宗記念法要において、親鸞聖人の生き方に学び、次の世代の方々にご法義

がわかりやすく伝わるよう、その肝要を「浄土真宗のみ教え」として示し、ともに唱和していただきたい旨を申し述べました。

浄土真宗では蓮如上人の時代から、自身のご法義の受けとめを表出するために『領解文』が用いられてきました。そこには「信心正因・称名報恩」などご法義の肝要が、当時の一般の人々にも理解できるよう簡潔に、また平易な言葉で記されており、領解出言の果たす役割は、今日でも決して小さくありません。

しかしながら、時代の推移とともに、『領解文』の理解における平易さという面が、徐々に希薄になってきたことも否めません。したがって、これから先、この『領解文』の精神を受け継ぎつつ、念仏者として領解すべきことを正しく、わかりやすい言葉で表現し、またこれを拝読、唱和することでご法義の肝要が正確に伝わるような、いわゆる現代版の「領解文」というべきものが必要になってきます。そこでこのたび、「浄土真宗のみ教え」に師徳への感謝の念を加え、ここに新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)として示します。

南無阿弥陀仏

「われにまかせよ そのまま救う」の 弥陀のよび声
私の煩惱と仏のさとりは 本来一つゆえ
「そのまま救う」が 弥陀のよび声

ありがとう といただいて

この愚身をまかす このままで

救い取られる 自然の浄土

仏恩報謝の お念仏

これもひとえに

宗祖親鸞聖人と

法灯を伝承された 歴代宗主の

尊いお導きに よるものです

み教えを依りどころに生きる者 となり

少しづつ 執われの心を 離れます

生かされていることに 感謝して

むさぼり いかりに 流されず

穏やかな顔と 優しい言葉

喜びも 悲しみも 分かち合い

日々 精一杯 つとめます

この新しい「領解文」（浄土真宗のみ教え）を僧俗を問わず多くの方々に、さまざまな機会
で拝読、唱和いただき、み教えの肝要が広く、また次の世代に確実に伝わることを切に願って
おります。

令和五年 一月十六日
二〇二三年

龍谷門主 釋 專 如

念仏者の生き方

仏教は今から約二五〇〇年前、釈尊がさとりを開いて仏陀となられたことに始まります。わが国では、仏教はもともと仏法と呼ばれていました。ここでいう法とは、この世界と私たち人間のありのままの真実ということであり、これは時間と場所を超えた普遍的な真実です。そして、この真実を見抜き、目覚めた人を仏陀といい、私たちに苦悩を超えて生きていく道を教えてくれるのが仏教です。

仏教では、この世界と私たちのありのままの姿を「諸行無常」と「縁起」という言葉で表します。「諸行無常」とは、この世界のすべての物事は一瞬もとどまることなく移り変わっているということであり、「縁起」とは、その一瞬ごとにすべての物事は、原因や条件が互いに関わりあって存在しているという真実です。したがって、そのような世界のあり方の中には、固定した変化しない私というものは存在しません。

しかし、私たちはこのありのままの真実に気づかず、自分というものを固定した実体と考え、欲望の赴くままに自分にとって損か得か、好きか嫌いかなど、常に自己中心の心で物事を捉えています。その結果、自分の思い通りにならないことで悩み苦しんだり、争いを起こしたりして、苦悩の人生から一歩たりとも自由になれないのです。このように真実に背いた自己中心性を仏教では無明煩悩といい、この煩悩が私たちを迷いの世界に繋ぎ止める原因となるのです。なかでも代表的な煩悩は、むさぼり・いかり・おろかさの三つで、これを三毒の煩悩といいます。

親鸞聖人も煩悩を克服し、さとりを得るために比叡山で二十年にわたりご修行に励まれました。しかし、どれほど修行に励もうとも、自らの力では断ち切れない煩悩の深さを自覚され、ついに比叡山を下り、法然聖人のお導きによって阿弥陀如来の救いのはたらきに出遇われました。阿弥陀如来とは、悩み苦しむすべてのものをそのまま救い、さとりの世界へ導こうと願われ、その願い通りにはたらき続けてくださっている仏さまです。この願いを、本願といいます。我執、我欲の世界に迷い込み、そこから抜け出せない私を、そのままの姿で救うとはたらき続けていてくださる阿弥陀如来のご本願ほど、有り難いお慈悲はありません。しかし、今ここで救いの中にありながらも、そのお慈悲ひとすじにお任せできない、よろこべない私の愚かさ、煩悩の深さに悲嘆せざるをえません。

私たちは阿弥陀如来のご本願を聞かせていただくことで、自分本位にしか生きられない無明の存在であることに気づかされ、できる限り身を慎み、言葉を慎んで、少しずつでも煩惱を克服する生き方へとつくり変えられていくのです。それは例えば、自分自身のあり方としては、欲を少なくして足ることを知る「少欲知足」であり、他者に対しては、穏やかな顔と優しい言葉で接する「和顔愛語」という生き方です。たとえ、それらが仏さまの真似事といわれようとも、ありのままの真実に教え導かれて、そのように志して生きる人間に育てられるのです。このことを親鸞聖人は門弟に宛てたお手紙で、「（あなた方は）今、すべての人びとを救おうという阿弥陀如来のご本願のお心をお聞きし、愚かなる無明の酔いも次第にさめ、むさぼり・いかり・おろかさという三つの毒も少しずつ好まぬようになり、阿弥陀仏の薬をつねに好む身となっておられるのです」とお示しになられています。たいへん重いご教示です。

今日、世界にはテロや武力紛争、経済格差、地球温暖化、核物質の拡散、差別を含む人権の抑圧など、世界規模での人類の生存に関わる困難な問題が山積していますが、これらの原因の根本は、ありのままの真実に背いて生きる私たちの無明・煩惱にあります。もちろん、私たちはこの命を終える瞬間まで、我欲に執われた煩惱具足の愚かな存在であり、仏さまのような執わ

れない完全に清らかな行いはできません。しかし、それでも仏法を依りどころとして生きていくことで、私たちは他者の喜びを自らの喜びとし、他者の苦しみを自らの苦しみとするなど、少しでも仏さまのお心になう生き方を目指し、精一杯努力させていただく人間になるのです。

国の内外、あらゆる人びとに阿弥陀如来の智慧と慈悲を正しく、わかりやすく伝え、そのお心になうよう私たち一人ひとりが行動することにより、自他ともに心豊かに生きていくことのできる社会の実現に努めたいと思います。世界の幸せのため、実践運動の推進を通し、ともに確かな歩みを進めてまいりましょう。

二〇一六（平成二十八）年十月一日

浄土真宗本願寺派門主 大谷光淳

「私たちのちかい」についての親教

私は伝灯奉告法要の初日に「念仏者の生き方」と題して、大智大悲からなる阿弥陀如来の心をいただいた私たちが、この現実社会でどのように生きていくのかということについて、詳しく述べさせていただきました。このたび「念仏者の生き方」を皆様により親しみ、理解していただきたいという思いから、その肝要を「私たちのちかい」として次の四カ条にまとめました。

わたしの私たちのちかい

一、自分の殻に閉じこもることなく
穏やかな顔と優しい言葉を大切にします
微笑み語りかける仏さまのように

一、むさぼり、いかり、おろかさにながれず
しなやかな心と振る舞いを心がけます
心安らかな仏さまのように

一、自分だけを大事にすることなく
人と喜びや悲しみを分かち合います
慈悲に満ちみちた仏さまのように

一、生かされていることに気づき
日々に精一杯つとめます
人びとの救いに尽くす仏さまのように

この「私たちのちかい」は、特に若い人の宗教離れが盛んに言われております今日、中学生や高校生、大学生をはじめとして、これまで仏教や浄土真宗のみ教えにあまり親しみのなかった方々にも、さまざまな機会で唱和していただきたいと思います。そして、先人の方々が大切に受け継いでこられた浄土真宗のみ教えを、これからも広く伝えていくことが後に続く私たちの使命であることを心に刻み、お念仏申す道を歩んでまいりましょう。

二〇一八（平成三十）年十一月二十三日

浄土真宗本願寺派門主 大谷 光 淳

親鸞聖人御誕生八百五十年 慶讃法要 立教開宗八百年

趣意書

来る二〇二三（令和五）年に宗祖親鸞聖人のご誕生八百五十年を、また、その翌年には立教開宗八百年をお迎えすることになります。つきましては、私たちの宗門は二〇二三（令和五）年にその慶讃法要をお勤めいたします。

ものごとを自己中心的にしか考えられない私たちがこの世を生きることが苦悩そのものです。その苦悩を超えて生きていく道を教えてくださるのが仏法です。阿弥陀仏は私たちに「どんなに孤独で苦しく悲しくとも、私はあなた方一人ひとりを、そのままに受けとめて、決して見放さない」との救いのメッセージを「南無阿弥陀仏」というみ名に込めて、よび続けておられます。そのメッセージをそのままに領き受けとめることが、私たちに届けられた真実信心となり、どのような状況におかれようとも揺らぐことのない尊い安心を

頂くことになるのです。それこそが、さまざまな苦悩にも向きあつて生きることのできる依りどころとなりましょう。そういう阿弥陀仏から頂いている御恩への感謝の言葉がお念仏であり、その救いの在り方を、念仏者の生き方として私たちにわかりやすく、しかも体系立てて説き示してくださったということが、浄土真宗にとって親鸞聖人による「立教開宗」の意義であります。

遙か二五〇〇年前、釈尊は、「諸行無常」と「縁起」という、この世界と人間のありのままの真実を見抜かれました。さらにそのような在り方のなかには、変化しない実体的な自我など存在しないにもかかわらず、人びとは自ら仮想した自我に執われ、限らない欲望に基づいて、自らに苦しみをもたらし、そして世界にさまざまな争いを引き起こしていることを明らかにされました。

これは、現代にもそのままに通じる現実です。

およそ八百年前、親鸞聖人は、自己の在り方を深く省みて、私たち人間とは自己中心的な思い、煩惱からいかにしても抜け出ることのできない存在であると気づかれました。しかし、そういう煩惱に突き動かされる私たち誰にも、誰ひとり取り残すことなく尊い安心を与えようとはたき続けている阿弥陀仏の願いに出遇われたのでした。そのことを身を以て私たちの生き方として示してくださったのが親鸞聖人です。その親鸞聖人の説き示してくださった浄土真宗の教えに出遇うことがなければ、今の私はありません。この喜びを込めて、聖人のご誕生を祝い、「立教開宗」に感謝する慶讃法要をお勤めするのです。

さて、現代世界は、社会・国家のレベルでは自国の経済や文化を優先する排他的で閉鎖的な在り方が優勢となり、それにより国際的にさまざまな対立や紛争が起こっています。また個人レベルでは、自己努力と自

己責任という名目のもとに、共に生きるという価値観が薄らぎ、孤独・孤立が深刻な問題となっています。こうした人類の破滅をもたらしような閉塞した現代世界の方向性を、互いに響き合って生きていける方向へと転換し逆転させていくことは、世界のすべての宗教が果たすべき役割です。しかしながら、日本のみならず世界各地域では硬直した宗教からの離反現象が広がっており、宗教は、その役割を十分に果たせているとはいえません。

このような状況のなか、今こそ、「自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現」を理念とし、仏道の基本を踏まえて人びとと共に歩む私たち念仏者の果たすべき使命は、かけがえのない、大変に重いものです。

今回の慶讃法要に向けて、「世のなか安穏なれ、仏法ひろまれ」との親鸞聖人のお言葉を胸に、地道にその役割を果たすべく、精一杯精進してまいりましょう。

二〇一九（令和元）年八月

浄土真宗本願寺派
龍谷山本願寺

親鸞聖人御誕生八百五十年 慶讃法要
立教開宗八百周年

新制御本典作法

第二種



「新制 御本典作法」
の制定について

宿縁 念佛伽陀
宿縁讃
表白
頌讃
正信念佛偈
大信讃
念佛
回向句
慶喜
念佛

このたび、あらたに制定された「新制御本典作法」は、宗祖親鸞聖人によつてお念仏のみ教えの真意が開顕された浄土真宗の根本聖典『顕浄土真実教行証文類』（教行信証）からすべて御文を選定し、伝統的な声明と大衆唱和の両面を兼ね備えたお勤めです。また、五十年前に制定された「御本典作法」（音楽法要）の一部旋律を法要の前後で再導入することによつて、五十年前の意思をしっかりと受け止め、次の五十年に受け継いでいくという想いも込めています。

上記QRコードから「新制御本典作法」の各構成の概略がご覧いただけますとともに、音源を公開していますので、ぜひご視聴ください。

宿縁（総序）

ああ 弘誓の強縁
多生にも値ひがたく
眞実の淨信
億劫にも獲がたし
たまたま行信を獲ば
遠く宿縁を慶べ

宿縁讃（総序） 呂曲 出音 反徴 黄鐘調

遇 眞 噫
獲 實 弘
行 淨 誓
信 信 強
遠 億 縁
慶 劫 多
宿 叵 生
縁 獲 叵 値

念佛伽陀 合曲 出音 商 黄鐘調

南无阿弥陀佛

如^に來^{らい}興^{こう}世^せ次第取
 奇^き特^{とく}最^{さい}勝^{しょう}次第取
 一^{いち}乘^{じよう}究^く竟^{きよう}次第取
 速^{そく}疾^{しつ}圓^{えん}融^{にゆう}次第取
 十^{じつ}方^{ぼう}稱^{しょう}讚^{さん}次第取
 時^じ機^き純^{じゆん}熟^{じゆく}
 之^し火^か正^{しょう}說^{せつ}
 之^し火^か金^{こん}言^{ごん}
 之^し火^か極^{ごく}說^{せつ}
 之^し火^か妙^{めう}典^{でん}
 之^し火^か真^{しん}教^{けう}
 之^し火^か誠^{じよう}言^{ごん}

建立^{こんりゆう}无^む上^{じよう}殊^{しゆ}勝^{しょう}願^{がん}
 超^{ちよう}發^{ほつ}希^け有^う大^{だい}弘^ぐ誓^{ぜい}
 五^ご劫^{こう}思^し惟^{ゆい}之^し攝^{しやう}受^{じゆ}
 重^{じゆう}誓^{せい}名^み聲^{しよう}聞^{もん}十^{じつ}方^{ぼう}
 普^ふ放^{ほう}无^む量^{りやう}无^む邊^{へん}光^{こう}
 无^む尋^げ无^む對^{たい}光^{こう}炎^{えん}王^{おう}

清^{しょう}淨^{じよう}歡^{かん}喜^ぎ智^ち慧^え光^{こう}
 不^ふ斷^{だん}難^{なん}思^じ无^む稱^{しょう}光^{こう}
 超^{ちよう}日^{にち}月^{がつ}光^{こう}照^{しょう}塵^{じん}刹^{せつ}
 一^{いつ}切^{さい}群^{ぐん}生^{じよう}蒙^む光^{こう}照^{しょう}
 本^{ほん}願^{がん}名^み號^{ごう}正^{しょう}定^{じよう}業^{ごう}
 至^し心^{しん}信^{しん}樂^{ぎやう}願^{がん}爲^に曰^{いん}

歸^き命^{みやう}无^む量^{りやう}壽^{じゆ}如^に來^{らい}
 南^な无^も不^ふ可^か思^し議^ぎ光^{こう}
 法^{ほう}藏^{ぞう}菩^ぼ薩^{さつ}回^い位^に時^じ
 在^{ざい}世^せ自^じ在^{ざい}王^{おう}佛^{ぶつ}所^{しよ}
 觀^と見^{けん}諸^{しよ}佛^{ぶつ}淨^{じよう}土^ど曰^{いん}
 國^{こく}土^ど人^{にん}天^{てん}之^し善^{ぜん}惡^{まく}
 成^{じよう}等^{とう}覺^{かく}證^{しょう}大^{だい}涅槃^{ねはん}
 必^{ひつ}至^し滅^{めつ}度^ど願^{がん}成^{じよう}就^{じゆ}
 如^に來^{らい}所^{しよ}以^い興^{こう}出^{しゆ}世^せ
 唯^{ゆい}說^{せつ}弥^み陀^だ本^{ほん}願^{がん}海^{かい}
 五^ご濁^{じよく}惡^{あく}時^じ群^{ぐん}生^{じよう}海^{かい}
 應^{おう}信^{しん}如^に來^{らい}如^に實^{じつ}言^{ごん}

能發一念喜愛心
不斷煩惱得涅槃
凡聖逆謗齋迴入
如衆水入海一味
攝取心光常照護
已能雖破无明闇

信樂受持甚以難
難中之難无過斯
印度西天之論家
中夏日域之高僧
顯大聖興世正意
明如來本誓應機

貪愛瞋憎之雲霧
常覆眞實信心天
譬如日光覆雲霧
雲霧之下明无闇
獲信見敬大慶喜
即横超截五惡趣

釋迦如來楞伽山
爲衆告命南天竺
龍樹大士出於世
悉能摧破有无見
宣說大乘无上法
證歡喜地生安樂

一切善惡凡夫人
聞信如來弘誓願
佛言廣大勝解者
是人名分陀利華
弥陀佛本願念佛
邪見憍慢惡衆生

顯示難行陸路苦
信樂易行水道樂
憶念弥陀佛本願
自然即時入必定
唯能常稱如來號
應報大悲弘誓恩

天親菩薩造論說
歸命无尋光如來
依修多羅顯眞實
光闡橫超大誓願
廣由本願力迴向
爲度群生彰一心

歸入功德大寶海
必獲入大會衆數
得至蓮華藏世界
即證眞如法性身
遊煩惱林現神通
入生死菌示應化

本師曇鸞梁天子
常向鸞處菩薩禮
三藏流支授淨教
焚燒仙經歸樂邦
天親菩薩論註解
報土回果顯誓願

往還迴向由他力
正定之回唯信心
惑染凡夫信心發
證知生死即涅槃
必至无量光明土
諸有衆生皆普化

道綽決聖道難證
唯明淨土可通入
萬善自力貶勤修
圓滿德號勸專稱
三不三信誨慙
像末法滅同悲引

一生造惡值弘誓
至安養界證妙果
善導獨明佛正意
矜哀定散與逆惡
光明名號顯回緣
開入本願大智海

行者正受金剛心
慶喜一念相應後
與韋提等獲三忍
即證法性之常樂
源信廣開一代教
偏歸安養勸一切

專雜執心判淺深
報化二土正辨立
極重惡人唯稱佛
我亦在彼攝取中
煩惱鄣眼雖不見
大悲无倦常照我

本師源空明佛教
憐愍善惡凡夫人
眞宗教證興片州
選擇本願弘惡世
還來生死輪轉家
決以疑情爲所止

速入寂靜无爲樂
必以信心爲能入
弘經大士宗師等
拯濟无边極濁惡
道俗時衆共同心
唯可信斯高僧說

大信讚（信卷）律曲 出音 宮 壹越調 定曲
大信心者「則是」
長生不死之神方
選擇迴向之直心
金剛不壞之眞心
心光攝護之一心
世間難信之捷徑
極速圓融之白道

忻淨厭穢之妙術
利他深廣之信樂
易往无人之淨信
希有最勝之大信
證大涅槃之眞回
眞如一實之信海

定曲
南无阿弥陀佛

序曲
南无阿弥陀佛

同
南无阿弥陀佛

序曲
一南
一无
一阿
一弥
一陀
一佛 ●●●

一仰うー とう
 一可ー か
 一奉ふー ぶ
 一持ちー じ
 一特とくー とく
 一可ー か
 一頂ちようー ちよう
 一戴だいー だい
 一矣いー い
 一還へんー へん
 一相そうー そう
 一利りー り
 一益やくー やく
 一顯けんー けん
 一利りー り
 一他たー た
 一正しょうー しょう
 一意いー い
 一證しょうー しょう
 一大だいー だい
 一涅ねー ね
 一槃はんー はん
 一籍じやくー じやく
 一願がんー がん
 一力りきー りき
 一迴えー え
 一向こうー こう

南無阿彌陀仏

「われにまかせよ　そのまま救う」の　弥陀のよび声
わたくし　ぼんのう　ほとけ
私の煩惱と仏のさとりは　本来一つゆえ

「そのまま救^{すく}う」が
弥陀^{みだ}のよび声^{ごえ}

ありがとう といただいて

この愚身みをまかす　このままで

救^{すく}い取^とられる
自然^{じねん}の浄土^{じょうど}

ぶつとんほうしゃ
仏恩報謝の
 お念仏
 ねんぶつ

これもひとえに

しゅうそ しんらんしょうにん
宗祖親鸞聖人と

ほうとう でんしょう
法灯を伝承された
歴代宗主の

とうと
みちび
尊いお導きに
よるものです

よろこ
慶ばしいかな

心を弘誓の佛地に樹て

念おもいを難思なんじの法海ほうかいに流ながす

深く如來の矜哀を知りて

まことに師教しきょうの恩厚おんこうを仰あおぐ

慶喜きょうき
い
い
よ
至いた
り

至^し孝^{こう}
い
い
よ
重^{おも}し

み^{おし}教えを依^よりどころに生^いきる者^{もの} となり

少（すこ）しずつ
執（とら）われの心（こころ）を
離（はな）れます

生いかされていることに感謝かんしゃして

むさぼり
いかりに
流ながされず

穏やかな顔と優しい言葉

喜びも 悲しみも 分かち合い

ひびひ
日々に
せいいつばい
精一杯
つとめます

（唱和いたしましょう）

恩徳讃

如来大悲の恩徳は

身を粉にしても報ずべし

師主知識の恩徳も

ほねをくだきても謝すべし

恩徳讃

親鸞聖人御和讃
作曲 清水 脩

Moderato ♩=76
mp

によ らーい だ い ひーの お んどーく は

mf

み をーこ に し てーも ほ うずーべ し

p cresc. f

し しゅーー ち しーき の お んどく もー

f p

ほ ーね を くだきても しゃ す べ し

雅楽

本願寺の法要においては、読経とともに雅楽演奏が行われることがあり、その楽曲は、「管楽器」と「打楽器」で編成されています。

旋律を担う「管楽器」はいずれも竹製で、三種類あります。迫力ある音で主旋律を奏でる「篳篥」。高低差に特徴のある音で、曲を艶やかに彩る「龍笛」。そして、和音で曲の音色をまとめる「笙」。この三つの音が合わさることで、「宇宙」を表現しています。

また雅楽演奏には指揮者がいないため、演奏者がお互いの指使いや息遣いを意識し共感しなければ、拍や旋律が揃わなくなってしまう。そのため、演奏をまとめていくには「打楽器」が重要です。

雅楽における打楽器は、同じく三種類で、鼓を台に乗せて両側を桴で打つ「鞀鼓」、平太鼓を円形の杵に吊るした「太鼓（楽太鼓）」、金属製の皿型を玉や牙、水牛の角などの固い素材でつくられた桴で打って鳴らす「鉦鼓」。

これらのさまざまな役割を持つ音色が合わさって奏でられる雅楽の演奏も、法要を荘厳する一部分です。極楽浄土には、常に妙なる音楽が奏でられているとされています。雅楽の美しい響きから、阿弥陀さまの救いの世界であるお浄土に思いをはせてみましょう。



「笙 しょう」

「天から射し込む光」を表すといわれ、息を吸っても吐いても音が鳴る特性から、常に音を奏でることで、曲の音色をまとめる。



「龍笛 りゅうてき」

「天と地の間を駆け巡る龍の姿」を表し、高低のある音で旋律を奏でる。



「篳篥 ひちりき」

「大地に響く人々の声」を表すとされ、主旋律を奏でる。



「鉦鼓 しょうこ」

鞀鼓、太鼓に従って拍子を取りながら、打楽器の音色に金属のかん高い響きを与える。



「太鼓 たいこ」

一定の間隔で大きく響く低音を発し、演奏に力と変化を与える。



「鞀鼓 かっこ」

演奏全体の拍子を導く役目を持っており、楽人中の上席の者の所役となっている。

親鸞聖人のご生涯

◆ 親鸞聖人略年表

親鸞聖人は、平安時代の終わりの
一一七三年五月二十一日（承安三年四月
一日）に京都で誕生されました。九歳の
時に出家され、比叡山で仏道の修行を
しておられました。人々を救うこと
ができない自らの煩惱の深さとそこ
のあり方に納得できず、苦悩の日々を
送られました。そこで二十九歳の時に
比叡山を下りて、聖徳太子が創建され
たと伝わる六角堂に籠もり、夢のお告
げを受けて東山吉水の法然聖人のもと
に行かれました。親鸞聖人は、法然聖
人の説く、あらゆる人々を救う阿弥陀
如来の本願念仏の教えに帰依されまし
た。また、法然聖人のもとにおられた時、
恵信尼さまと出会われたとされていま
す。

西暦	年号	年齢	親鸞聖人のあゆみ
一一七三	承安三	一	京都で誕生。
一一八一	養和元	九	慈鎮和尚のもとで得度、範宴と名のる。比叡山へ。 のちに妻となる恵信尼さま生まれる。
一一八二	寿永元	一〇	比叡山を下り、六角堂に参籠。吉水の法然聖人の弟子になる。
一二〇一	建仁元	二九	法然聖人の『選択本願念仏集』を书写。
一二〇五	元久二	三三	専修念仏停止により、越後国府に流罪となる。
一二〇七	承元元	三五	法然聖人は土佐へ。（承元の法難） 流罪を赦免される。
一二一一	建暦元	三九	妻子と東国に向かう。
一二一四	建保二	四二	このころ、『教行信証』を著す。
一二二四	元仁元	五二	覚信尼さま生まれる。
一二三二	貞永元	六〇	このころ、京都に帰る。
一二四八	宝治二	七六	『浄土和讃』、『高僧和讃』を著す。
一二五四	建長六	八二	このころ、すでに恵信尼さまは越後に居住する。
一二五六	康元元	八四	慈信房（善鸞）を義絶。
一二五八	正嘉二	八六	『正像末和讃』を著す。
一二六三	弘長二	九〇	弟・尋有の善法坊にて往生。

法然聖人の念仏の教えが盛んになり、
中には諸宗をそしめる者が出てきたこと
から、比叡山や南都仏教（奈良）の僧侶は、
念仏の禁止を朝廷に訴えました。そし
て、親鸞聖人は越後（新潟県）に流罪と
なりました。

四十二歳の時に東国に移られ、常陸（茨
城県）を中心にお念仏を広められると
ともに、『顕浄土真実教行証文類（教
行信証）』を著されました。親鸞聖人
が『教行信証』をほぼ完成された元仁元
（一二二四）年を以て、浄土真宗が開かれ
た立教開宗の年と定めています。

親鸞聖人は、六十歳を過ぎたころ、京
都に戻られました。京都では浄土真宗の
教えを伝えるため、多くの書物を執筆さ
れ、また、たくさんのお手紙を書かれま
した。そして、一二六三年一月十六日
（弘長二年十一月二十八日）に九十歳で
往生されました。



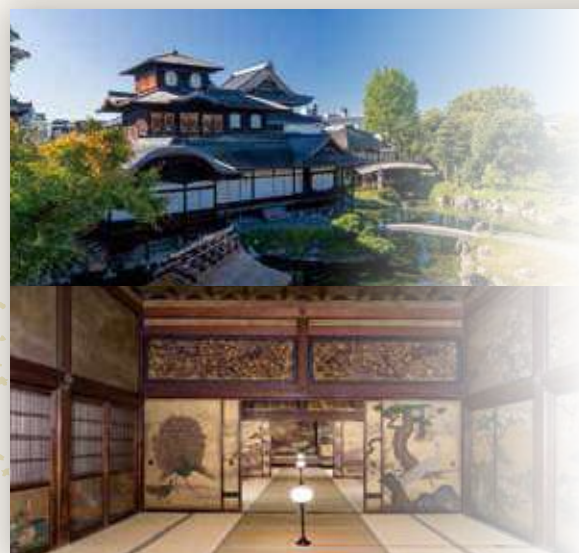
親鸞聖人 鏡御影かがみのごえい／本願寺蔵

御影堂 記念参拝式

慶讃法要の団体参拝にご参加いただけなかった方や、離郷門信徒、旅行会社主催のツアー参加者など、1人でも多くの方々にご縁を深めていただくため、「記念参拝式」を執り行います。

時 間 10:00 / 11:00 約30分
場 所 御影堂
お勤め 讃仏偈

法 話	4月29日(土)	5月6日(土)	5月7日(日)
	大阪教区 中島東組 光照寺 若林唯人	石川教区 江南組 本光寺 八幡真衣	北豊教区 小倉組 永明寺 松崎智海



書院・飛雲閣特別公開

豪壮華麗な安土・桃山文化を彷彿とさせる
本願寺の名宝をご覧ください。

時間 10:00 ~ 13:30
14:30 ~ 16:30

所要時間約 40分

飛雲閣 慶讃茶席

本願寺の歴史と文化を体感していただくため、国宝 飛雲閣において、抹茶接待を行います。

所要時間 30分/回 定員 40人/回

- ① 10:30 ~ 11:00 ④ 12:00 ~ 12:30
- ② 11:00 ~ 11:30 ⑤ 12:30 ~ 13:00
- ③ 11:30 ~ 12:00 ⑥ 13:00 ~ 13:30

受付時に懇志2,000円のご進納をお願いします。



親鸞聖人御誕生850年 慶讃法要
立 教 開 宗800年

協賛行事

どなたでもご参加いただけます

テーマ

現代社会に“仏教的価値観”を伝える
“学び”を通して“生き方”を見つめ直す

慶讃法要期間中のゴールデンウィークにあたる
3日間(4月29日、5月6日・7日)は、
僧侶、門信徒をはじめ、特にこれまで仏教や
浄土真宗にあまり親しみのなかった人や、
若い世代の皆さまにもご参加いただけるよう
協賛行事を開催します。

	御影堂	白洲 ほか	書院・飛雲閣
5:30	開 門	開 門	
6:00	晨 朝		
10:00	参拝式(法話)	ブ ー ス ワ ー ク シ ョ ッ プ	拝 観 抹 茶 接 待
10:30			
11:00	参拝式(法話)		
11:30			
12:00			
12:30	コンサート		
13:00			
13:30			
14:00	法 要 (法 話)		
14:30	引き続き シンポ・講演 (14:20頃開始)		拝 観
15:00			
15:30			
16:00			
16:30			
17:00	閉 門	閉 門	

基本日程

2023(令和5)年
4月29日(土)
5月6日(土)
5月7日(日)

※「書院・飛雲閣 特別公開」を
除くコンテンツにご参加の際に
は、当日の混雑が予想されま
すため事前申込をおすすめい
たします。協賛行事特設サイ
トにてお申込みください。



協賛行事特設サイト

※各行事にご参加の前には、「新
型コロナウイルス感染症対策
ガイドライン」を必ずご確認
ください。



ガイドライン

シンポジウムⅡ

「宗教・仏教から現代社会のあり方を考える」

自己選択・自己責任が求められる生きづらさ、ふとした瞬間の喪失感や虚無感は、何を求めさせるのか。カルト問題も蔓延る世のなかで、宗教とりわけ仏教の精神と役割を考える。

日にち 5月6日(土)

登壇者 釈徹宗(相愛大学学長・僧侶)
島菌進(宗教学者)
池上彰(ジャーナリスト)



釈徹宗



島菌進



池上彰

シンポジウムⅢ

「親鸞聖人に学ぶ」

自己のあり方を深く省みて、私たち人間とは自己中心的な思い、煩惱からいかにしても抜け出ることのできない存在であると気づかれた親鸞聖人。その生き方に魅了された“親鸞ファン”の人生観を通し、自らの生き方を考える。

日にち 5月7日(日)

登壇者 釈徹宗(相愛大学学長・僧侶)
いとうせいこう(作家・クリエイター)
宮崎哲弥(評論家・相愛大学客員教授)
二階堂和美(シンガーソングライター・僧侶)



釈徹宗



いとうせいこう



宮崎哲弥



二階堂和美

御影堂 コンサート

時 間 12:00 約50分

出演者

4月29日(土)
二階堂和美



シンガー
ソングライター。
浄土真宗本願寺派僧侶。
代表作に、スタジオリ
制作映画『かくや姫の
物語』主題歌『いのちの
記憶』など。

5月6日(土)
相愛オーケストラ



5月7日(日)
龍谷大学吹奏楽部



御影堂 シンポジウム

現代社会に仏教的価値観を発信することを目的に、
仏教・浄土真宗のみ教えに学び、
自身のあり方を考えるシンポジウムです。

法要に引き続き(14:20頃〜(90~120分))

シンポジウムⅠ

宗門校・学校法人武蔵野大学創立100周年記念事業「カンファ・ツリー・ヴィレッジ※」とのコラボ企画

「よき祖先の声に耳を澄ます」

日英同時通訳

—カンファ・ツリー・ヴィレッジ はじまりの集い—

親鸞聖人をはじめとする祖先の声に耳を澄ませ、
私たちの後に続く未来世代が生きる世の中を想像し、
いま私たちはどう生きるべきなのかを問う。

日にち 4月29日(土)

登壇者 デービッド・アトキンソン(株式会社小西美術工藝社代表取締役社長)
ローマン・クルツナリック(文化思想家)
マリエム・ジャメ(社会起業家、世界経済フォーラム ヤング・グローバル・リーダー)
ケザン・チョデンT・ワンチュク王女殿下
(ブータン王国プリンセス、タンカ〈仏画〉保存修復センターエグゼクティブ・ディレクター)
エフライム・エディ・ホセ(外国人初の文化庁文化財保護官、仏教絵画修復師)

オープニング
メッセージ



デービッド・アトキンソン

ライブ
メッセージ



ローマン・クルツナリック

講 演



マリエム・ジャメ

対 話



ケザン王女殿下



エフライム・エディ・ホセ

※カンファ・ツリー・ヴィレッジについて

私たちは今、地球規模の課題、様々な対立に直面しています。対立とは、本来、分けようのない世界を生きている私たちが、良し悪しといった二つに分けるものの見方することによって生まれると、仏陀は説きました。2024年に創立100周年を迎える武蔵野大学は、このような仏法の智慧を、世界の誰にでも開かれていくように「カンファ・ツリー・ヴィレッジ」というプロジェクトを立ち上げました。

愛唱歌 《みんな花になれ》

本願寺がお届けする、みんなと一緒にうたって元気になれる歌

愛唱歌について

親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要をご縁に、「世のなか安穏なれ」と願われた親鸞聖人の教えを依りどころとし、自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現に向けた取り組みの一環として制作されました。

歌詞は、「世代を超えて長く広く親しまれ、皆と一緒に歌って元気になれる」という内容で公募され、全国から1262点もの作品が寄せられました。そのなかから、最優秀賞に選ばれた『みんな花になれ』（詞：山口タオさん）に、加藤登紀子さん（歌詞審査委員会委員長）が作曲し、愛唱歌が誕生しました。

この歌で「笑顔」と重ねられる「花」は、仏教では仏さまのお慈悲を表すといひます。そのぬくもりのような、あたたかな笑顔が、この歌を通してひとりでも多くの方に届き、広がりますように。

メッセージ

素晴らしい詩をご応募いただき、ありがとうございました。1262の作品を全部読ませていただき、3つの詩に作曲させていただきました。選ばれなかったものの中にもフレッシュな着想に驚くようなものもあり、楽しませていただきました。

最優秀賞の「みんな花になれ」は歌いやすく、すぐに覚えられる歌です。みなさん声を合わせて歌ってください。優秀賞の2作品も魅力的な作品ですので歌ってくださいね。ここで生まれた歌がみなさんの心の中で咲き続けることを願っています。

愛唱歌歌詞審査委員会
委員長 加藤登紀子



CD・楽譜集

\\ 本願寺出版社より好評発売中 //

0120-464-583
FAX 075-341-7753

CD



価格
1,100 円（税込）

楽譜集



価格
1,100 円（税込）

動画（再生リスト）

浄土真宗本願寺派公式
YouTube チャンネル
「浄土真宗本願寺派西本願寺」



- ・「愛唱歌発表会」歌：加藤登紀子さん
- ・作詞者インタビュー付演奏動画
- ・手話表現 など

楽譜と音源のダウンロード（無料）

浄土真宗本願寺派
公式ウェブサイト



お問い合わせ先

教化本部教化部
TEL 075-371-5181（代表）

愛唱歌

親鸞聖人御誕生850年・
立教開宗800年慶讃法要記念

みんな花になれ

作詞 山口 タオ
作曲 加藤登紀子

1. あなたがー わらうとー は な に なるー
2. あなたがー ないたらー あ め に なるー

13
みているー わたしもー は な に なるー
みているー わたしもー あ め に なるー

17
いいことー あるよー わ ら っ た らー
いいんだー いいんだー な い た っ てー

21
だれでもー はーなにー な れ る ん だー
あーめがー ふるからー は な が さくー

25
そらをみあげるは なのように えがおいっばいさ か そうよ
かぜによりそうは なのように やさしい えがおが さくんだよ

29
そらをみあげるは なのように えがおいっばいさ か そう
かぜによりそうは なのように やさしい えがおが

33
よ さくんだよ

43
やさしい えがお さかそう よ

42
a tempo

みんな花になれ

1. あなたが笑うと 花になる
みている私も 花になる
いいことあるよ 笑ったら
誰でも花になれるんだ
空を見上げる花のように
笑顔いっばい咲かそうよ
空を見上げる花のように
笑顔いっばい咲かそうよ

2. あなたが泣いたら 雨になる
みている私も 雨になる
いいんだいいんだ 泣いたって
雨がふるから 花が咲く
風によりそう花のように
やさしい笑顔が咲くんだよ
風によりそう花のように
やさしい笑顔が咲くんだよ
やさしい笑顔が咲くんだよ

き きょう し き 帰 敬 式

場 所
阿弥陀堂

ふ きょう 布 教

場 所
御影堂
お茶所
総会所

私たちは、ひとりで生きていけるほど強くはありません。

弱い私を見抜いてくださり、「いつでもあなたとともにある」と、はたらいてくださっているのが阿弥陀如来です。阿弥陀さまに支えられ、励まされながら90年の生涯を生き抜かれた親鸞聖人。聖人が伝えてくださった「南無阿弥陀仏」を依りどころに生きてゆく第一歩として受けさせていただく儀式、それを「帰敬式」といいます。

「帰敬式」を受けますと、「釋〇〇」という法名をいただきます。「釋」の文字は、お釈迦さまの弟子（仏弟子）としていただく名前です。

お釈迦さまは「仏教」を開かれ、私が「仏になれる道」として「南無阿弥陀仏」を伝えてくださいました。阿弥陀さま（南無阿弥陀仏）は「決してあなたをひとりぼっちにすることはない」と誓い、すでに私のところへはたらいてくださっています。「私はひとりではなかった」という、よろこび・自覚を新たにする時、ご門主よりいただく名前が法名です。いのちが終わってからではなく、生きている「今」受式し、いただく名前が法名で、これが本来のあり方です。

この度の慶讃法要を機縁にぜひ帰敬式を受式し、心新たにお念仏をよろこぶ生活を送りましょう。

- 1. 受式時間** ○午前（朝）の部：法要（10:00～）終了後引続き
○午後（昼）の部：法要（14:00～）終了後引続き
※4月29日、5月6日、7日、18日、19日、20日に受式を希望される場合は、一般参拝部（参拝教化部帰敬式係）までお問い合わせください。
※5月21日は晨朝後のみ
※お申込みが当日となる場合は、受式時間の1時間前までに龍虎殿（参拝教化部）にて受付をお済ませください。

2. 場 所 阿弥陀堂

3. 冥 加 金 1万円（未成年は5千円）

4. 受付場所 龍虎殿（一般参拝部）

※団体参拝のご予約をされている場合は白洲テント（参拝受付テント）にお越しください（ただし、午前9時までに受付される場合は龍虎殿にお越しください）

法名の内願について

特に希望する法名（文字）がある場合、所属寺院住職と相談のうえ、法名を内願することができます。

申込手続…所属寺院住職を通じて、内願用の申請用紙にてお申込みください。

申込期限…受式希望日の2ヵ月前（期限厳守・ファックス不可）

内願懇志…1万円以上（受式冥加金と併せてご進納ください）

親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要では、法要前に記念布教が行われます。

その他、法要期間中、白洲内お茶所での「布教リレー」や、聞法会館 総会所での「常例布教」もご紹介します。

「ご縁を慶び、お念仏とともに」のスローガンのもと、一人ひとりが浄土真宗のみ教えに出遇えたことを慶び、み教えが広く伝わるご勝縁となるよう、どうぞ聴聞ください。

■ 阿弥陀堂・御影堂（両堂）

時 間	日 程	場 所
6:00	晨 朝 布 教	阿弥陀堂 ↓ 御影堂
9:35 (13:35)	日程説明・挨拶 記念布教	御影堂 (阿弥陀堂 中継)
10:00 (14:00)	法 要	御影堂



■ 白洲内お茶所

布教使による各15分の「布教リレー」

11:00～13:15

15:00～16:30

※4月29日、5月6日・7日除く



■ 総会所（聞法会館1階）

常例布教

昼 座 12:15～12:45



しゅいん ひうんかく 書院・飛雲閣 特別公開

国宝、重要文化財の宝庫、書院と飛雲閣を巡り、本願寺の歴史と文化にふれる



開催日

親鸞聖人御誕生850年 慶讃法要期間中
立教開宗800年

時間

1回目 11:20～13:20

2回目 15:20～16:50

5月18日(木)、5月19日(金)は1回目のみ
協賛行事 [4月29日(土)、5月6日(土)、7日(日)]
中は10:00～16:30 (13:30～14:30 法要時間を除く)

5月20日(土)は飛雲閣のみ 11:20～16:30

5月21日(日)は飛雲閣のみ 12:30～16:30

一方通行の順路を巡回し、拝観いただきます。
説明は音声ガイド(スピーカー)による案内となります。

※拝観者が多数の場合は、入場をお待ちいただくことがあります。



めん もつ 免 物

御影堂横の龍虎殿(参拝教化部)受付にてお迎えいただくことができます



※大きさと表装の違いにより冥加金額が変わりますので、詳しくは参拝教化部(免物係)までお問い合わせください。

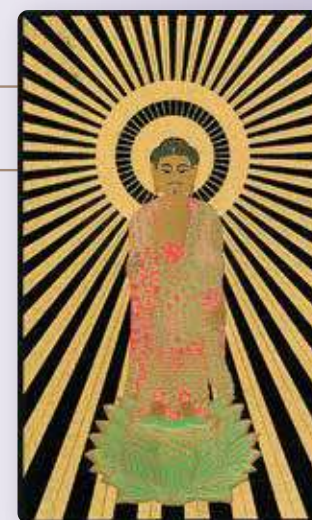
縦90mm×横55mm×厚み2mm
漆ブラック調バイオプラスチック

みょうが きん 冥加金 10,000円

PR動画及び
申込みフォームは
こちら↓



参拝教化部(免物係)



携行本尊とは、「独りじゃないよ、いつも一緒だよ」と、
よびかけてくださる阿弥陀さまを
いつでもどんな時でも感じられるよう、
持ち歩くことができる名刺サイズの御本尊です。
ご自身のために、また遠く離れて暮らすご家族のために、
ぜひお求めください。
本願寺(龍虎殿)で直接お迎えいただけるほか、
ホームページからのお申込みも可能です。

携行本尊(絵像)

携行本尊 関連商品 のご案内

- ・二つ折携行本尊入(4種)
- ・ホック付き携行本尊袋(3種)
- ・携行本尊ケース(茶・白)
- ・本尊スタンド(丸型・角型) 他



【取扱い】 開明社(本願寺売店)
Tel.075-341-4397

「〈貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～〉
ー子どもたちを育むためにー」 展示ブース

「テンプル食堂きょうと・西本願寺みんなの笑顔食堂」の開催

場 所
間法会館
白洲テント

宗門の実践目標「〈貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～〉ー子どもたちを育むためにー」の取り組みの一環である、子ども食堂・学習支援等の実践事例をパネルや映像等を通してご紹介します。寺院や団体等で、これまで取り組まれてきた運営方法や課題等もご紹介し、これから取り組まれる方への参考ともなる内容となっております。

また、2023（令和5）年5月6日に「一般社団法人えんまん」が運営するテンプル食堂を本山に招請し、地域の貢献に資するため「テンプル食堂きょうと・西本願寺みんなの笑顔食堂」を開催いたします。お気軽にお立ち寄りください。

「〈貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～〉
ー子どもたちを育むためにー」 展示ブース

開 催 日 慶讃法要期間中

場 所 間法会館 1 階ロビー



テンプル食堂きょうと・西本願寺みんなの笑顔食堂

場 所 白洲休憩施設（テント）

開 催 日 2023（令和5）年5月6日（土）
11：00～13：00

内 容 石川、福井、沖縄、京都、熊本と、全国で開催が広がる「テンプル食堂」を本願寺で開催します。食事（弁当）の他、フードパントリーとして支援を受けた物資等を提供し、あわせてレクリエーションを実施します。

主 催 一般社団法人えんまん
（代表理事：八幡真衣〈石川教区江南組本光寺衆徒〉）



子どもたちの笑顔のために募金



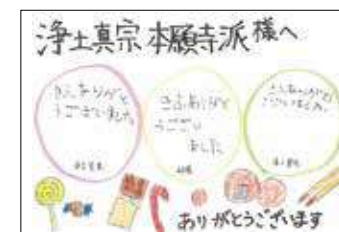
浄土真宗本願寺派（西本願寺）では、「自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献する」という理念のもと、「御同朋の社会をめざす運動」（実践運動）を推進しています。この運動の具体的な実践目標を重点プロジェクトと定め、2018年より「〈貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～〉ー子どもたちを育むためにー」を掲げています。この取り組みの一環として、「子どもたちの笑顔のために募金」に取り組んでおり、世界を視野に入れ長期的な展望に立ち、貧困で苦しむ国内外の子どもたちのために活用していますので、ぜひともご協力をお願いいたします。

支 援 先

① Dāna for World Peace!
ー世界の子どもたちの
笑顔に応援しますー

② 子どもたちの居場所
づくりを応援します

③ 施設で暮らす子どもたち
の笑顔に応援します



※「子どもたちの笑顔のために募金」の詳細については宗派公式WEBサイト・QRコードからご確認ください。



募金方法

ゆうちょ銀行口座へのお振込み、境内地内の募金箱への募金をはじめ、クレジットカードを用いてのキャッシュレス募金があります。キャッシュレス募金は、1回のみの募金の他、毎月定額を自動的に募金できる“マンスリーサポート”も利用可能です。

○郵便振替での募金方法

口 座 名：子どもたちの笑顔のために募金
口座番号：00940-8-282766

※『本願寺新報』へのご芳名の掲載可否について、通信欄に明記ください。

○他行等からのお振込みの際は、下記内容をご指定ください。

ゆうちょ銀行
店名（店番）：099 預金種目：当座
口座番号：0282766

○キャッシュレス募金
（1回の募金 / 毎月の募金）

キャッシュレス募金は、宗派公式ウェブサイトからアクセスし、必要事項等を入力し決済（募金）となります。

○キャッシュレス募金専用ページはこちらよりアクセスできます。



重点プロジェクト推進室 TEL 075-371-5181（代表）
E-mail project@hongwanji.or.jp

真宗と聖徳太子

場所
龍谷
ミュージアム

龍谷ミュージアムでは、「親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要」を記念して、親鸞聖人が「和国の教主」と崇められた聖徳太子をテーマとした展覧会を開催します。

この展覧会では、親鸞聖人の太子への篤い想いに触れるとともに、太子信仰の高揚に親鸞聖人と弟子たちが果たした役割を再確認します。そしてその後のご門徒たちが生み出してきた、太子信仰に関わる多彩な法宝物を展示いたします。

2023(令和5)年4月1日(土)～5月28日(日) [54日間]

休館日 4月17日(月)、5月1日(月)、5月15日(月)、5月22日(月)

開館 10:00～17:00 (最終入館 16:30)

入館料	一般	1,400 (1,200) 円
	高校・大学生	900 (700) 円
	小・中学生	500 (400) 円

※()内は前売り・20名以上の団体料金

※親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要参拝者の入館料は、一律700円(入館時に参拝章をご提示ください)

観覧所要時間 45分～1時間程度



本願寺前
(堀川通向側)

震旦和朝太子高僧先徳連坐像
岐阜・浄源寺蔵



木造
聖徳太子童形立像
東京・西光寺蔵



龍谷大学 龍谷ミュージアム

〒600-8399 京都市下京区堀川通正面下る(西本願寺前) TEL 075-351-2500

第66回 全国児童生徒作品展

場所
間法会館

「全国児童生徒作品展」は、毎年、全国の幼児・小中学生を対象に、「絵画」「書」「作文」の3部門において作品を募集いたしております。

このたび展示する作品は、海外を含む180団体から出品された4,979点(絵画2,753点、書1,814点、作文412点)の中から選ばれた優秀作品です。どの作品も、仏さまや親鸞さまへの感謝の気持ち、日頃の生活を通して感じた生きるよろこび、人を思いやる心の大切さなどが表現されています。

見るひとを感動させるすばらしい作品を展示していますので、ぜひご覧ください。

場所 間法会館 1階

展示期間 親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要期間中
※5月21日(日)は正午まで

部門 絵画・書道・作文



御正忌報恩講法要期間中の展示の様子



舞台公演『若き日の親鸞』

場所
京都四條
南座

松竹株式会社「南座」主催 舞台公演

親鸞聖人御誕生850年 立教開宗800年 慶讃法要記念

若き日の親鸞

京都 南座では、親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要を記念して、『若き日の親鸞』（原作 五木寛之〔講談社文庫 刊『親鸞』〕）と題し、「生きる喜びとは何か一動乱の京都に生まれた、若き親鸞の青春物語一」をテーマに特別公演を行います。

◆ 会 場 京都四條 南座
〒605-0075 京都市東山区四條大橋東詰

◆ 会 期 2023(令和5)年 4月10日(月)～29日(土・祝)

午前の部 10:30～
午後の部 14:30～

◆ 料 金 S席(1・2階) 12,000円(7,000円)
A席(3階) 6,000円(4,000円) ※(特別料金)

◆ 申 込 特別料金での観覧方法

1 近畿日本ツーリスト株式会社、株式会社JTB、東武トップツアーズ株式会社、株式会社日本旅行、名鉄観光サービス株式会社
お近くの各支店・窓口へお問い合わせください。

※上記5社以外の旅行会社からもお申込みいただけます。

2 10名様以上の団体様は、南座に直接お申込みください。

3 個人でのお申込みは、2023(令和5)年2月14日(火)10時から受付を開始いたします。

※詳しくは、真宗教団連合ホームページをご覧ください。

<https://www.shin.gr.jp/>



◆ 推 薦 真宗教団連合

◆ お問い合わせ

京都南座 075-561-1155 (10:00～17:00)



親鸞聖人生誕850年特別展

場所
京都国立
博物館

親鸞聖人生誕850年特別展

親鸞—生涯と名宝

真宗教団連合は、宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年・真宗教団連合結成50周年記念事業の一環として、「親鸞聖人生誕850年特別展 親鸞 生涯と名宝」の開催に特別協力いたしております。

本展覧会では、親鸞聖人の求道と伝道の生涯を、自筆の名号・著作・手紙をはじめ、彫像・影像・絵巻など浄土真宗各派の寺院が所蔵する法宝物を一堂に集め、紹介いたします。

◆ 会 場 京都国立博物館 平成知新館
(京都市東山区茶屋町527)
TEL 075-525-2473

◆ 会 期 2023(令和5)年 3月25日(土)～5月21日(日)

開館時間：9:00～17:30(入館は17:00まで)

休 館 日：月曜日

※ただし、3月27日(月)、5月8日(月)に団体観覧を希望される場合は、事前に親鸞展事務局にお申込みいただくことで観覧いただけます。

◆ 申 込 特別観覧料金での拝観方法

1 貸切バスを利用する団体は、乗降予約が必要となります【必須】。旅行会社を利用の場合は旅行会社経由で、旅行会社を利用しない場合は団体の責任者より直接、親鸞展事務局へご連絡ください。

2 貸切バスを利用しない団体・個人は、200円割引引換券を博物館南門チケット売場に提示のうえ、特別観覧料金をお支払いください。割引引換券は『宗報』1月号より掲載し(コピー可・1枚につき4名まで割引可)、宗務所、教務所等でも配布予定です。詳細は『宗報』をご確認ください。

◆ 主 催 京都国立博物館、朝日新聞社、NHK 京都放送局、NHK エンタープライズ近畿

◆ 特別協力 真宗教団連合

◆ 団体観覧申込・お問い合わせ

親鸞展事務局 TEL: 075-276-2282 / FAX: 075-284-0153

Mail: shinran10@jtb.com

◆ ホームページ

展覧会公式サイト <https://shinran850.jp>



大谷本廟



明著堂

京都東山五条の大谷本廟は、親鸞聖人をはじめ歴代宗主のご廟所（墓所）です。聖人のご廟である祖壇のおそば近くに納骨させていただきたいという思いから、全国の門信徒が納骨をされる場所として、毎日大勢の人たちが参拝され、香煙がたえません。

大谷本廟の総門（山門）をくぐると、正面に仏殿があります。その奥に、祖壇とその拝堂である明著堂があります。また、廟所の山側には広大な大谷墓地が広がり、聖人が火葬された御荼毘所があります。

大谷本廟は、今も昔も多くの有缘の方々が、納骨・永代経・墓参などをご縁としておみ法を聴聞される場所です。その由緒を大切にされて、ご縁のある多くの皆様のご参拝をお待ちしています。

参拝時間	大谷本廟 総門		無量寿堂	
	開 門	閉 門	開 堂	閉 堂
	5 : 30	17 : 00	8 : 00	16 : 30

住所・電話番号

〒605-0846
 京都市東山区五条橋東 6 丁目 514
 電話番号 (075) 531-4171
 FAX番号 (075) 531-2072
<https://otani-hombyo.hongwanji.or.jp/>



日野誕生院

京都の東南の郊外にあります日野誕生院は、親鸞聖人が誕生され、幼年時代をすごされたゆかりの地です。

平安時代の様式による堂内には、ご本尊、聖人の絵像、及び聖人の父である日野有範卿の木像がご安置されています。

また、境内には、聖人ご誕生の際に使用されたと伝わる、「産湯の井戸」と「胞衣塚」があります。



産湯の井戸

角坊



正面門

京都山ノ内の角坊は、親鸞聖人が晩年にお住まいとされた「善法坊」跡とされ、親鸞聖人ご往生の地です。角坊は、親鸞聖人七百五十回大遠忌事業の一環として、旧伽藍建物を除却し、境内地の整備が行われました。

ご本尊がご安置されている還浄殿は、六間四面のひのき造りで、正面欄間には聖人ご往生の様子が彫刻・装飾されています。



参拝時間

9 : 30 ~ 15 : 30

住所・電話番号

〒601-1417
 京都市伏見区日野西大道町 19
 電話番号 (075) 575-2258
 FAX番号 (075) 575-2241



還浄殿

参拝時間

9:30 ~ 16:30

住所・電話番号

〒615-0091
 京都市右京区山ノ内御堂殿町 25
 電話番号 (075) 841-8735
 FAX番号 (075) 841-8736

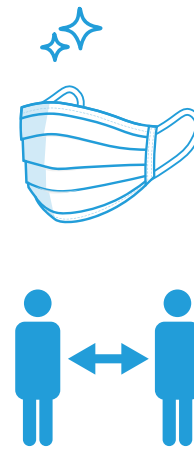


新型コロナウイルス
感染症対策ガイドライン

新型コロナウイルス 感染症対策のお願い

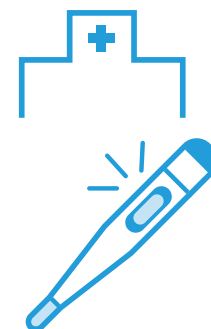
1 感染しないために

- ① 正しいマスクの着用、こまめな手洗い、外出先での手指消毒、こまめな換気を行ってください。
- ② 飲食時における会話は、マスクの着用を心掛け、大声での会話を控えてください。
- ③ 多人数での移動及び多くの人が集まる場所では、混雑の状況に十分に気をつけ、基本的な感染対策の実践を心掛けて、感染リスクを回避する行動をとってください。



2 感染を ひろげないために

- ① 参拝3日前から当日まで検温を行い、健康状態を確認してください。
- ② 37・5度以上の発熱や平熱よりも1度以上高い症状が続く場合は、医療機関を受診し、医師の判断を仰いでください。
- ③ 軽い風邪症状（のどの痛み、せき）及び味覚・嗅覚に違和感がある場合や、同居家族等で感染が疑われる場合は、医療機関を受診し、医師の判断を仰いでください。



3 参拝にあたって

- ① 健康上不安のある方、または当日体調のすぐれない方は、無理をなさらず参拝をお控えください。
- ② 参拝当日は、必ず御影堂入堂前に検温を行い、手指消毒のうえ、参拝してください。
- ③ 検温の結果、37・5度以上の発熱がある場合は、医療スタッフの指示に従ってください。



- ④ 参拝中はマスク着用を原則とし、咳エチケットを心掛けてください。
- ⑤ 飛沫拡散防止のため、大声での会話は控えてください。
- ⑥ 体調不良の場合は、団体参拝にあつては、引率責任者を通じて救護室及び職員・関係スタッフへ連絡、また、個人参拝にあつても、救護室及び職員・関係スタッフへ連絡し、医療スタッフの指示に従ってください。

4 参拝後、3日以内に 感染が確認された場合

- ① 団体参拝の場合は、引率責任者へ報告のうえ、団参・行事部へ連絡ください。
- ② 一般参拝の場合は、一般参拝部へ連絡ください。

5 その他

- ① 法要において感染者が発生した場合は、ホームページに情報を掲載いたします。
- ② ご参拝にあつては、感染予防対策の一環として常時換気を行っておりますため、防寒着をお勧めいたします。



修行期日 2023（令和5）年

第1期 3月29日（水）～4月 3日（月）

第2期 4月10日（月）～4月15日（土）

第3期 4月24日（月）～4月29日（土）

第4期 5月 6日（土）～5月11日（木）

第5期 5月16日（火）～5月21日（日）

5期 30日間

法要時間

午前の座 午前10時

午後の座 午後2時

- ・5月18日～21日の4日間については、1日1座〈午前〉
- ・4月29日、5月6日及び7日については、39頁をご参照ください。



浄土真宗本願寺派
公式WEBサイト



龍谷山本願寺
お西さんHP

※QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です

新制 御本典作法 第二種

Joint Celebration

850th Anniversary of Shinran Shonin's Birth & 800th Anniversary of the Establishment of the Jodo Shinshu Teaching
Life of Nembutsu enables us to appreciate every encounter